

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 3	教員・教員組織 【 B 】
点検・評価項目(1)	3-1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
評価の視点	教員に求める能力・資質等の明確化
	教員構成の明確化
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
点検・評価項目(2)	3-2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
評価の視点	編制方針に沿った教員組織の整備
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
点検・評価項目(3)	3-3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
評価の視点	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
	規程等に従った適切な教員人事
点検・評価項目(4)	3-4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
評価の視点	教員の教育研究活動等の評価の実施
	教育活動・研究活動等の業績の公表状況
	ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性
点検・評価項目(5)	3-5 教員組織の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

【点検・評価項目ごとの現状説明】

3-1	<p>スポーツ科学科の求める教員像は、内規で教員選考基準を定め、本学の建学精神とその教育理念を踏襲し、「トップアスリートの育成に加え、スポーツ指導者の養成とスポーツ文化の普及に努め、さらには地域に密着した健康づくりに貢献できる人材を育成するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者」としている。教員構成については、学科の特徴である実技、理論のバランスを考慮し、学科の理念・目的並びにカリキュラムに照らし合わせ概ね適切であるといえる。教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在については、学科協議会、学部教授会、各種委員会等において適切に対処している。</p> <p>健康科学科で求める教員像は、本学の建学精神とその教育理念を踏襲し、「生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成」、「健康を科学する、医療・食品・環境のスペシャリストを育成」に相応しい教育上の能力を有すると認められる者を、内規で教員選考基準を定めて公募制により厳正に採用をしている。また昇格人事の基準についても、内規で審査基準の明確化をはかっている。教員構成については、学科の特徴である実技（実習・演習）と理論のバランスを鑑みて、また、学科の理念・目的を踏まえて、適切に教員組織を整備していると考えている。</p> <p>なお、学部の教員組織の編成方針等は特に定めていない。</p>
3-2	<p>スポーツ科学科の教員数は 18 名、教員 1 人当たりの学生数は 26.6 名、年齢構成比率は 61 歳以上 38.9%、51 歳～60 歳 22.2%、41 歳～50 歳 22.2%、31 歳～40 歳 16.7%、30 歳以下 0%、女性教員比率 11.1%、外国人教員比率 0% である。授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備については、本学科の特徴である実技、理論のバランスを考慮しながら検討している。</p> <p>健康科学科の教員数は 17 名（助手は含めず）、教員 1 人当たりの学生数は 26.5 名である。教員の年齢構成比率は 35～39 歳 1 名（5.9%）、40～44 歳 1 名（5.9%）、45～49 歳で 3 名（17.6%）、50～54 歳で 4 名（23.5%）、55～59 歳で 2 名（11.8%）、60～64 歳で 4 名（23.5%）、65～69 歳で 2 名（11.8%）、70 歳～は 0 名で、各年代比率が 30%未満であり、大学基準協会の指標に準拠している。一方、女性教員比率は 5 名（29.4%）、外国人教員比率 0 名（0%）と改善の余地が残されている。</p>
3-3	<p>スポーツ科学科では、教員選考基準に関する内規を定め、これに沿って適切に選考・審査が行われている。当学科では過去 3 年間で教授への昇任人事は 4 件、採用人事が 2 件あり、いずれも厳正な審査、選考を基に実施された。</p> <p>健康科学では、内規に基づき、人格、教育研究指導上の能力、教育業績、研究業績、学界および社会における活動実績等に留意し、厳正な審査、選考の結果、採用している。</p>
3-4	<p>学部共通として、教員の教育研究活動等の評価については、教育活動については「学生による授業評価」等で実施されその活性化に努めているが、研究活動については評価およびその活性化に繋がるシステムは構築されていない。教員の業績については、2011(平成 23) 年に導入された「研究業績システム」によって HP に公表することを義務づけている。</p> <p>教員数 17 名のうちデータベースに業績を未公表の教員 0 人、教育活動を未公表の教員 1 人、過去 3 年間でデータ更新を行った教員 10 人であった。(2013 年 9 月 1 日現在) FD については本年度学部 FD 委員会が「研究倫理の啓発」「大規模講義の授業効率 Up」それぞれのテーマで研究及び教育活動に資する研修会を 2 回開催している。</p> <p>しかし、新人教員研修会及び教員の社会的貢献・管理業務等に関する資質向上を図るための研修会は、実施していない。</p>
3-5	年度ごとに自己点検部局委員会、FD 委員会において検証を行っている。

【効果が上がっている事項】

3-1	内規で教員選考基準を定め、選考の方針を明らかにしている。
3-2	学部教授会、学科協議会、教務委員会等において、授業科目と担当教員の整合性を毎年度検証している。
3-3	成文化された規定に則って、適正な人事が行われている。
3-4	
3-5	

【改善すべき事項】

3-1	
3-2	教員の年齢構成、男女比率、外国人教員比率に改善の余地がある。女性教員、外国人教員については、教員構成のあり方の検討をした上で、中期計画を立てて専任教員として採用することが望ましい。
3-3	
3-4	教育研究業績を適切に評価し、その活性化につながるシステムが構築されていないので、改善をする。 教員活動状況評価表の作成、教員表彰の学科内規作成を検討する。
3-5	

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

(3-1) (3-3) スポーツ科学科教員選考基準に関する内規（平成17年）、(3-2) 学園の現況 平成25（2013）年度、(3-4) HP 研究業績システム（研究業績プロ）、「学生による授業評価と大学教育」
--

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～2018)	3-2 教員の年齢構成、男女比率、外国人教員比率の改善	年齢構成については、大学基準協会の指標に準拠して、各年代の比率がそれぞれ30%を越えないようにする。また、男女比率、外国人教員比率も同指標に準拠する。	→					
	3-4 教員を対象としたFD活動、研修会が組織的、恒常的に行われている。	報告書等で実施状況が確認できる。	→					
14年度目標	3-2 教員の年齢構成、男女比率、外国人教員比率について点検し、大学基準協会に提出する「改善報告書」に将来計画を記載する。学部の教員組織の編成方針を定める	左記の計画が「改善報告書」に盛り込まれている。 学部の教員組織の編成方針が定められる。	→	B				
	3-4 教員を対象としたFD活動、研修会のあり方について検討を始める。	左記のことが学科協議会等で確認される。	→	S				